

カラス

知っておきたいカラスの生態



日本には5種類のカラスが生息していますが、農作物被害が問題となるのは、主にハシブトガラスとハシボソガラスの2種です。

○ハシブトガラス もともとは森林に生息。近年、都市部での増加が顕著。

くちばし…分厚く、太く、湾曲していて先がするどい。

額 …盛り上がっている。

○ハシボソガラス もともとは草原など開けた環境に生息。**農耕地に多く見られる。**

くちばし…細めでまっすぐで先がするどい。

額 …なだらかになっている。

『生息域』 ハシブトガラスは日本全国で、ハシボソガラスは九州より北の地域で一年中見ることができます。両種ともいろいろな環境に出現しますが、**ハシボソガラスのほうに田畑など開けた環境でよく見られます。**

『行動等』 繁殖期は3～7月で地上約10～20mの高さの樹上や高圧鉄塔に巣を作ります。秋から冬には若鳥を中心とする群れが多くみられ、数百～数千羽が林地などに集まって眠ります。

『食べ物』 雑食性で、昆虫や果実、鳥類の卵・ヒナなども食べます。その他、ゴミ集積場、家畜飼育場などで残飯や家畜用の飼料等も食べます。
ハシブトガラスのほうに動物性の餌を好む傾向があります。

『被害等』 被害の対象となる作物は、果樹・野菜・飼料作物・穀物などです。
ニワトリの卵を食べる、ビニールハウスを破るという被害も生じており、**被害の対象となる作物や内容がほかの鳥類と比べ多岐にわたる**のがカラスの特徴です。

鳥類の被害を最小限にする鉄則

鉄則1 「寄せ付けない！」

- 所有者が不明であったり、収穫せずに放置された果樹は地域の合意のうえで、できるだけ伐採する。
- 家庭から出た生ゴミなどをエサとしてカラス類が集まることがあるため、コンポスト容器を使用しふたをきちんと閉める、決められたゴミの収集日に出すなど適切に処理する。
- 収穫しない野菜や果実だけでなく、すでに被害を受けた農作物も農地に放置せず、堆肥化やほ場へのすきこみ等適切に処理する。

鉄則2 「侵入を防ぐ！」

○防鳥ネット

作物の種類や栽培規模によっては費用が高くなるため、コストを十分考慮し設置の可否を判断する。

被害を及ぼす鳥種によって適正な網目の大きさのネットを用いる。

ネットと地面の間に隙間があると、中に入り込んでしまうため、隙間ができないようにする。

○テグス、糸、針金等

鳥類の侵入経路を見極め、侵入を妨害するように張る。

間隔は鳥類が翼を広げた長さより狭くするとよい。

ヒヨドリ

知っておきたいヒヨドリの生態



- 『生息域』 日本全国で一年中見ることができます。
ただし、山間地や北の地方で繁殖する個体は、秋に平地や温暖な地方へ移動して越冬します。
そのため、春と秋には渡りの群れが見られます。
- 『行動等』 繁殖期は5～9月で、地上1～5mの葉のよく茂った樹木の枝に巣を作ります。
繁殖期はつがいごとに分散していますが、冬期には数羽から百羽以上が集まることがよくあります。
- 『食べ物』 昆虫類や果実、花や蜜、葉野菜などを食べます。甘いものを好み、サクラやツバキの花の中にくちばしを差し込んで蜜をなめることもあります。樹木の若葉や新芽も食べることがあります。
- 『被害等』 主に果樹と野菜が被害の対象となります。
関東以西では冬に個体数が増え、被害が多発します。特に野生の木の実が無くなる真冬～初春にかんきつ類やキャベツなどの冬野菜に大きな被害が発生します。
ヒヨドリはくちばしでちぎり取ったり、つついて食べるため、ちぎれた跡や鋭角の三角形の痕跡が残り、昆虫類による丸みを帯びた食痕とは区別できます。

ムクドリ

知っておきたいムクドリの生態



- 『生息域』 九州以北に広く分布し、一年中見ることができます。
平地から山地の村落、山麓の林、草原、農耕地、果樹園、市街地、公園、庭園、ゴルフ場などに生息しています。
- 『行動等』 繁殖期は3月下旬～7月で、年に1～2回繁殖し、巣は人家の戸袋など建物の隙間や樹洞に作ります。
夏から冬には林地などに数百から数万羽が集まって眠りますが、近年は街路樹などに集まることが多く、糞や騒音が各地で問題になっています。
- 『食べ物』 雑食性で動物質では昆虫やミミズ、植物質では木や草の果実を食べます。
- 『被害等』 主に果樹が被害の対象になります。
ムクドリはショ糖を消化できないため、ショ糖濃度が高いかんきつ類での被害が発生することはありません。
なしでは品種により被害の発生に差があり、糖度が高く、果肉が軟らかい品種が被害を受けやすい傾向があります。